

平成28年度第1回南三陸町環境審議会 会議録

- 1 日時 平成28年6月8日(水) 午後2時から午後3時20分まで
- 2 場所 南三陸町役場2階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 南三陸町環境審議会委員(11名)
佐藤太一委員、小野寺瑞穂委員、佐々木正司委員、高橋長晴委員、阿部司委員
佐藤俊光委員、山内敏裕委員、齋藤左恵子委員、工藤真弓委員、小野寺政道委員
西城幸江委員
 - (2) 事務局
 - ・南三陸町環境対策課
小山雅彦、星力、山内香、森本裕之、佐々木良輔
 - ・パシフィックコンサルタント株式会社
寺田林太郎、折笠和彦、中嶋良樹
 - (3) 欠席者(4名)
鈴木卓也委員、小野寺寛委員、高橋一郎委員、及川吉則委員
 - (4) 傍聴者
なし
- 4 委員長あいさつ
- 5 人事異動に伴う委員の変更
気仙沼保健所 宮城英徳委員から小野寺瑞穂委員に変更
南三陸商工会 五十嵐亨委員から佐々木正司委員に変更
- 6 会議成立の確認
南三陸町環境基本条例第28条第2項の規定により、委員の過半数が出席していることから会議が成立することを確認。
- 7 審議事項
 - (1) 南三陸町環境基本計画骨子案について
 - ①事務局より資料の説明
 - ②質疑応答
(佐藤太一委員) FSC 認証・ASC 認証のマークの使用に関して審査機関等確認はしたのか。
(事務局) マークの使用に関しては確認をして使用する。

- (阿部委員) 本計画には、10年先の環境の対するものが明記されていないがどのように考えているのか。台風や豪雨による河川の氾濫などが予測できるが計画に明記しなくても良いのか。
- (高橋委員長) 自然災害に配慮した施策を本計画の中に入れたらどうか。
- (事務局) 自然災害については、危機管理課の防災計画に盛り込むため本計画には含めない。
- (山内委員) 松くい虫被害松の伐採を早急に行ってほしい。
- (高橋委員長) 森林組合に要望が来ている。今後は子どもたちの通学に危険を及ぼすような場所から最優先で伐採できるように町に要望したい。
- (佐藤太一委員) 町では、山林等の管理計画を作成するべきではないか。その計画の中に松の対応を入れてはどうか。山林等の管理については、環境対策と産業振興の部分にかかわってくると考えるがどうか。
- (事務局) 森林環境保全として、松くい虫防除についても町として支援を行っている。
- (佐藤太一委員) もっとマクロ的な視点の計画を作成するべきではないか。南三陸町の森林は8割を占めているためマクロ的な計画の下に個別事業が出てくるような形ではないのか。
- (事務局) 先ほどは個別事業で説明したが、マクロ的な計画としては、総合計画が一番大きな枠である。その中に環境保全等の各個別事業が入っている。
- (佐藤俊光委員) FSC 認証・ASC 認証については、環境保全の一言に尽きる。山や海や川を守っていけるようなビジョンを考えてもらいたい。防災に関しても、課ごとの対応ではなく、町全体として対応してほしい。
- (事務局) 役場として、関連性のあるものは横のつながりを強めたい。取組事業が多いため縦割りの解消を意識し情報交換をしながら事業を進めたい。
- (工藤委員) 第8章の中で子どもたちの視点や環境重視はよい。しかし、学校によって環境教育の機会に差があると感じるため、地域を学ぶ機会を教育委員会と学校と連携を取り増やすべきではないか
- (高橋委員長) 昔の志津川町時代はふるさと学習会があり小学校全域にわたって地域を学習する機会があった。子どもたちが同じレベルで地域学習ができるようになるとよい。
- (工藤委員) 今のふるさと学習会は年2回で、自分が経験したころとは少し違ってきている。「わらすこ探検隊」は南三陸町推進ネットワークが子どもたちを集めてサポートしている。このような良いモデルとなっている活動を町が援助し、良い所を学校教育に入れるなどし、変化していく町から学ぶ機会を均等にしてほしい。

- (事務局) 現在、ふるさと学習会は6年生を対象とし年に2回行っている。
ふるさと学習会については、今後も継続させ回数を増やすことについて、環境教育の一環として提案したい。また、バイオガス事業の紙芝居を作成した。学校などに配布し、総合学習の時間等に紙芝居で学んでもらうように声掛けをしたいと思う。
- (佐藤太一委員) 骨子案の22ページについて「有料」とあるが「優良」ではないか。
FSC 認証・ASC 認証の事業説明について、認証前の説明となっている。認証後の説明にした方がよいのではないか。
- (事務局) 誤字は修正する。認証後の説明に訂正する。
- (佐藤太一委員) ネイチャーセンターの現状はどうなっているのか。
- (事務局) 現在は準備室の段階である。造成の状況、県と国との連携もあり協議中である。
- (小野委員) 耕作放棄地対策事業について、農地を元に戻すのにそれほどお金はかからない。だが、川や橋などの農地の周辺の環境の整備など農地の一歩手前の支援を考えていただきたい。
- (事務局) 農地周辺環境についての支援があるか、関係課に確認する。事業としてあくまで耕作放棄地だが、それ以外の分野で周辺環境の整備する支援があれば本計画に載せる。
- (小野寺委員) 骨子案の26ページ第8章の循環型社会について特に生ごみについて、もっと強い表現の方がよいのではないか。
- (事務局) もう少し強い表現でPRすることを検討する。
- (高橋委員長) 生ごみがなかなか出ない。生ごみの分別が面倒という声もある。各地域で生ごみの説明を再度行った方がよい。
- (小野寺委員) 小型家電リサイクルについてどのように考えているか。また、本計画に盛り込むことはできないか。
- (高橋委員長) 小型家電のリサイクルとはどういったものか。
- (小野寺委員) 小さい家電を回収し再資源化することである。今までは廃棄されていたが、どのようなスタンスか伺いたい。
- (事務局) 町として処分は行っていないが、資源として業者に回収してもらっている。現在、環境対策課で一般廃棄物処理基本計画を作成中のためその中に明記したい。
- (齋藤委員) 家庭から出るごみの処理は家事従事者が出すことが多い。婦人会でバイオガス施設を見学し勉強になった。子どもが学んで、親に伝えるという視点も必要なのではないか。

- (西城委員) 子どもから親に伝える視点も重要だが、高齢者に生ごみの説明をしてはどうか。地域の高齢者は在宅率が高く、生ごみの分別をしているのは高齢者なのではないかを感じる。子どもに説明する場合は、言葉を選ばなくてはならないが、高齢者は同じ言葉でよく啓発しやすい。まずは、高齢者の方に説明をした方がよいのではないか。
- (高橋委員長) それは良い案だと思うがどうか。
- (事務局) 生ごみの説明については、紙芝居などで説明するなど子ども向けで考えている。しかし、単独の年代ではなく、様々な年代の方が一体となってできる事業を、新たな方向性として考えていく。
- (佐々木委員) 地球温暖化対策については子どもより大人の方がルーズであると感じる。県では、一般住宅向けの省エネ診断があるが活用してどうか。
- (事務局) 県の事業では、無料で一般住宅用の省エネ診断を行っている。診断についてPRしていきたい。
- (工藤委員) ネイチャーセンターについて、町で空いている施設(旧診療所)を活かし、始めたらどうか。今ある時間と空間を活かし早い段階で始めることも必要ではないか。
- (佐藤太一委員) ソフト面からも行動する必要はある。海のビジターセンターはすでに動いている。
- (工藤委員) ネイチャーセンターは子どもたちの環境教育の土台・受け皿になるため、町全体で準備していく必要がある。学校任せでは負担が大きい。
- (事務局) 関係課に確認し、活動できる部分から先行して動いてはどうかと提案していきたい。
- (佐藤太一委員) フォレストック事業について具体的に何をしているかわからない人が多いと思う。そのため、具体的に説明や使い道を入れるべきではないか。
- (事務局) 用途の公表について関係課に確認する。
- (佐藤太一委員) 事業と言っている以上町として公表する必要がある。
- (事務局) 関係課に公表の必要性について意見があった旨を伝える。
- (高橋委員長) 環境基本計画骨子案の基本的部分については賛成多数で原案のとおりとする。

8 その他

- (小野寺委員) 環境税について5年間先延ばしとなった。
みやぎ環境交付金について、メニュー選択型と市町村提案型がある。
ぜひ活用していただきたい。

9 閉会